エコシステム岡山株式会社
2023年度環境経営レポート
（対象期間：2023年4月～2024年3月）

発行日：2024年7月24日

目　次

		ページ
1	環境方針	P.3
2-1	組織の概要 □会社概要と組織図	P.4
2-2	組織の概要 □エコアクション21における役割・責任・権限 □認証・登録の対象組織・活動	P.5
3	許可の内容	
	□産業廃棄物処理業許可	P.6
	□特別管理産業廃棄物処理業許可	P.7
	□一般廃棄物処理業許可	P.8
4	処理工程図	P.9
5-1	実績・環境目標 □主な環境負荷の実績 □環境目標及びその実績 （1）中長期目標	P.10
5-2	実績・環境目標 （2）試行運用期間中の実績	P.11
6.	環境活動計画 □2023年度環境活動計画	P.12
7	環境活動計画及び取組結果とその評価	P.13.14
8	環境関連法規等の遵守状況の確認・評価結果	P.15
9	代表者による全体の評価と見直し指示	P.15
10	地域清掃活動	P.16

エコシステム岡山株式会社

環境経営方針

私たちは、環境保全の重要性を深く認識し、また、DOWAホールディングスの環境理念を共有し、事業活動を通じて、地域をはじめ地球環境の維持・向上に貢献するための努力を継続的に実施します。

DOWAグループの環境保全活動

1. 当社の事業活動における公害防止、省資源、環境負荷の低減などの活動
2. 社会の環境リスク低減に貢献するための活動

1 ．環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

2 ．二酸化炭素排出量の削減の為に省エネルギーに取組みます。

3 ．受託した産業廃棄物の再資源化に取組み、リサイクル率の向上を図ります。

4 ．雨水の再利用と水使用量を管理し、水使用量の削減に取組みます。

5 ．化学物質及び原材料使用量の削減（或いは適正管理）に取組みます。

6 ．環境に配慮した収集運搬及び処分に取組みます。

7 ．地域での清掃活動等環境活動に積極的に参加します。

8 ．本方針を全従業員に周知徹底します。

改定日：2020年4月23日

代表取締役工場長　　川邉　誠

2-1 組織の概要

□会社概要と組織図

（1）名称及び代表者名
エコシステム岡山株式会社
代表取締役工場長　川邉　誠

（2）所在地
本　　社 〒702-8045
岡山県岡山市南区海岸通 1丁目3番1号
https://www.dowa-eco.co.jp/EOK

（3）環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者；工場長　　川邉　誠
担当者；安全･衛生ｸﾞﾙｰﾌﾟ　　三好　徹

（4）事業内容
産業廃棄物の中間処理業
特別管理産業廃棄物の中間処理

（5）法人設立年月日 ： 平成16年7月6日
操業開始年月日 ： 平成17年1月28日

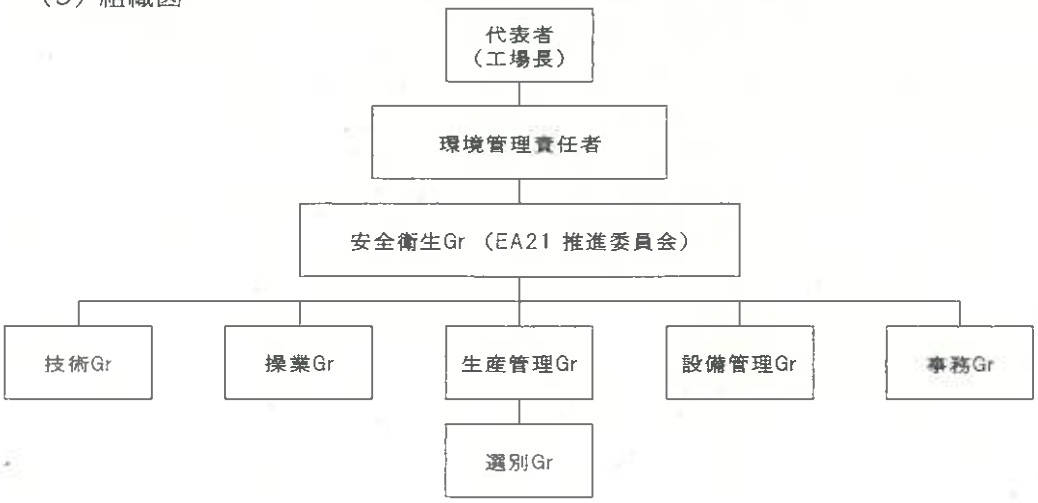
（6）資本金 ： 100百万円

（7）事業の規模　（2023年度実績）
売上高　24,383,5万円
廃棄物処理量　76.150t （中間処理：前処理量+廃液処理量）
※焼却前の再資源化量 537t
前処理ﾒﾀﾙ39.5t+再生資源燃料497.5t
※焼却後の再資源化量 11,496t

金属類(焼却メタル)	製錬原料	2,381t
ばいじん	路盤材･セメント原料	197t
燃え殻	路盤材･セメント原料	8,918t

従業員　39　人
敷地面積　30,499　㎡

（8）事業年度　2022年4月～2023年3月
（9）組織図



2-2 組織の概要

□エコアクション21における役割・責任・権限

	役割・責任・権限
代表者(工場長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
EA21推進委員会	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付) ・環境活動計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価 ・問題点抽出、原因究明、対策立案、実施計画作成。
グループリーダー	・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: エコシステム岡山株式会社
対象事業所: 全組織対象
対象外: なし
活動: 産業廃棄物の中間処理業(焼却)
特別管理産業廃棄物の中間処理業(焼却)

3　許可の内容

□産業廃棄物処理業許可

許可番号	岡山市　　第08320130813号
許可の年月日	令和3年10月 1日
許可の有効期限	令和8年 9月30日
事業の範囲	処分業（中間処理）
事業の区分	中間処理（焼却、選別・破砕、調整分離、中和）
処理施設の種類	焼却施設
廃棄物の種類 ［焼却］ ［選別・破砕］ ［調整分離］ ［中和］	 燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、動物系固形不要物、ゴムくず、金属くず、カラスくず・コンクリートくず（がれき類を除く）・陶磁器くず、ばいじん（自動車等破砕物を含む） 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず、がれき類（自動車等破砕物を含む） 汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ 廃酸、廃アルカリ
処理能力 ［焼却施設］ ［選別・破砕施設］ ［調整分離施設］ ［中和施設］	 燃え殻：90t/日、汚泥：90t/日、廃油：136t/日、廃酸：102.9t/日、廃アルカリ：102.9t/日、廃プラスチック類：142t/日、紙くず：142t/日、木くず：142t/日、繊維くず：95t/日、動植物性残さ：64t/日、動物系固形不要物：64t/日、ゴムくず：95t/日、金属くず：52t/日、カラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず：52t/日、ばいじん：90t/日　（1日24時間稼働） （1号機）　廃プラスチック類：589t/日、紙くず：505t/日、木くず：927t/日、繊維くず：202t/日、ゴムくず：641t/日、金属くず：298t/日、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず：264t/日、がれき類：99t/日 （2号機）　廃プラスチック類：130t/日、紙くず：111t/日、木くず：205t/日、繊維くず44t/日、ゴムくず141t/日、金属くず：66t/日、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず：58t/日、がれき類：99t/日 $9.9m^3$/日 49.9m3/日

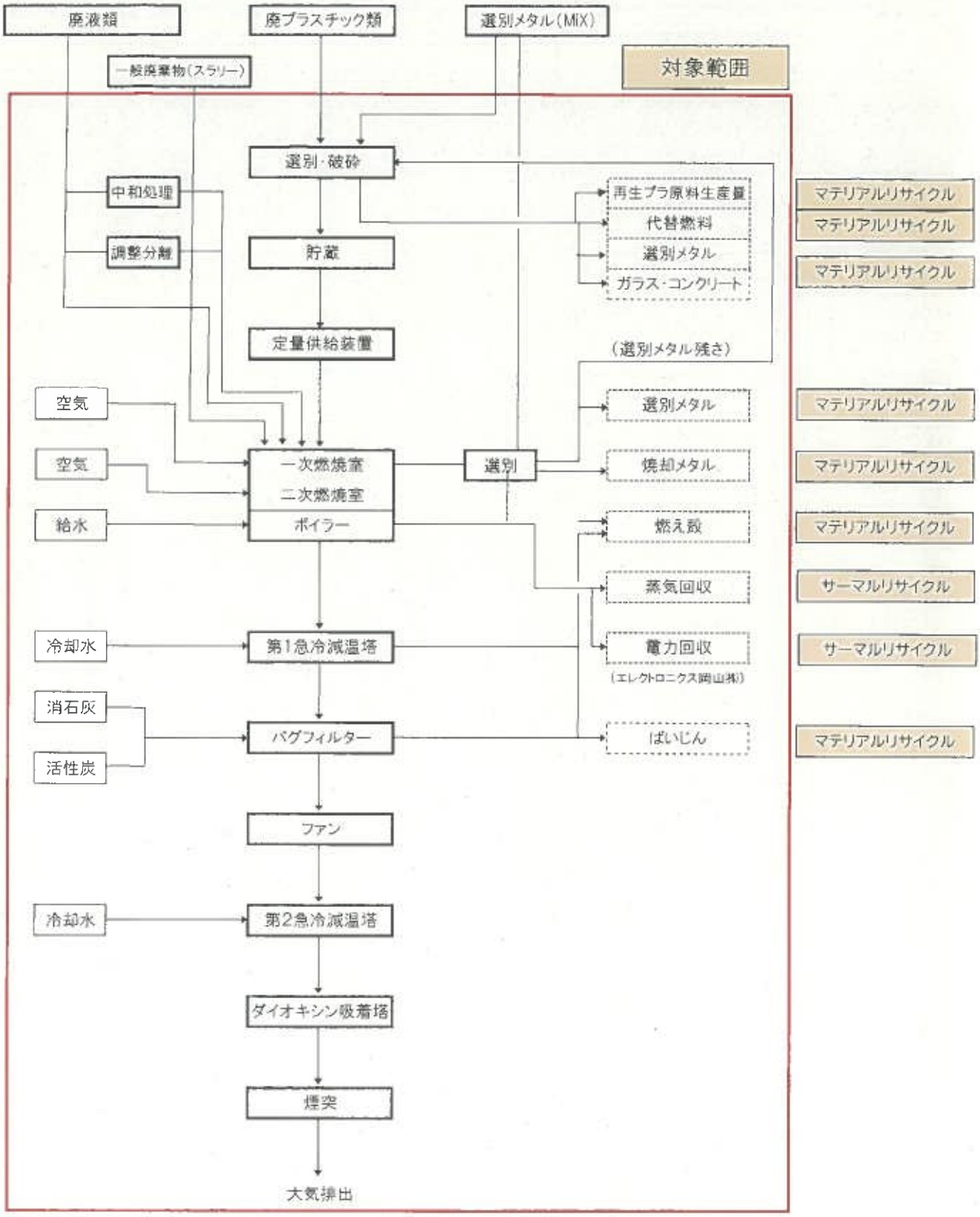
□特別管理産業廃棄物処理業許可

許可番号	岡山市　　第08370130813号
許可の年月日	令和3年10月 1日
許可の有効期限	令和8年 9月30日
事業の範囲	処分業(中間処理)
事業の区分	中間処理(焼却、調整分離、中和)
処理施設の種類	焼却施設
廃棄物の種類 ［焼却］ ［調整分離］ ［中和］	 燃焼しやすい廃油、腐食性廃酸、腐食性廃アルカリ 燃焼しやすい廃油、腐食性廃酸、腐食性廃アルカリ 腐食性廃酸、腐食性廃アルカリ
処理能力 ［焼却］ ［調整分離施設］ ［中和施設］	 燃焼しやすい廃油:136t/日、腐食性廃酸:102.9t/日、腐食性廃アルカリ:102.9t/日 9.9m^3/日 49.9m3/日

□一般産業廃棄物処理業許可

許可番号	14006
許可の年月日	令和5年4月12日
許可の有効期限	令和7年4月11日
事業の範囲	処分業(中間処理)
事業の区分	中間処理(焼却、調整分離、中和)
処理施設の種類	焼却施設
廃棄物の種類	メタン発酵処理残渣(ろ液、スラリー)
処理能力	焼却炉1基　・汚泥:発酵残渣(スラリー)　90t/日 ・廃アルカリ:消化ろ液　102.9t/日 焼却施設1基 スラリータンク　1基 廃液タンク　2基 クッションタンク　1基

4 処理工程図


廃液類
廃プラスチック類
選別メタル(MIX)
一般廃棄物(スラリー)
対象範囲
選別・破砕
中和処理
調整分離
貯蔵
定量供給装置
再生プラ原料生産量
代替燃料
選別メタル
ガラス・コンクリート
マテリアルリサイクル
マテリアルリサイクル
マテリアルリサイクル
(選別メタル残さ)
空気
空気
給水
一次燃焼室
二次燃焼室
ボイラー
選別
選別メタル
焼却メタル
燃え殻
蒸気回収
マテリアルリサイクル
マテリアルリサイクル
マテリアルリサイクル
サーマルリサイクル
冷却水
第1急冷減温塔
電力回収
(エレクトロニクス岡山㈱)
サーマルリサイクル
消石灰
活性炭
バグフィルター
ばいじん
マテリアルリサイクル
ファン
冷却水
第2急冷減温塔
ダイオキシン吸着塔
煙突
大気排出

5-1 実績・環境目標

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO_2	8,509,108	8,277,166	8,129,519
電力使用量	kWh	12,054,807	11,732,998	11,714,004
軽油使用量	L	53,826	51,695	61,441
ガソリン	L	340	400	360
灯油	L	1,313	2,012	1,910
プロパンガス	m^3	24	28	33
産業廃棄物焼却量	t	86,675	82,109	76,738
自社産業廃棄物(最終処分)	t	9,785	9,597	9,871
水使用量	m^3	130,893	122,625	139,461
A重油	L	0	0	37,300
BDF使用量	L	35,290	25,400	4,000

※二酸化炭素総排出量には、ガソリン、灯油、LPG分を含む　　※BDF=バイオ燃料

□環境目標及びその実績

(1)中長期目標

※2022年実績

年度 / 項目		2020~2022年度平均	2023年度	2024年度	2025年度
		基準値	目標	目標	目標
Ⅰ.二酸化炭素排出量合計(電力・軽油)	kg-CO_2	8,349,123	8,551,637	8,225,133	今年度実績から算出予定
	対基準(%)	-	-	-	-
①電力使用量削減(使用電力量) 二酸化炭素排出係数(中電) 2016年:0.694 (kg-CO2/kWh)	kWh	11,232,532	12,128,100	11,657,307	今年度実績から算出予定
	kg-CO_2	8,215,750	8,416,901	8,090,171	-
	対基準(%)	-	98%	102%	-
②軽油使用量削減 *二酸化炭素排出係数 2.580(kgCO2/l)	L	51,695	52,223	52,311	52,311
	kg-CO_2	133,373	134,735	134,962	134,962
	対基準(%)	-	99%	99%	99%
③稼働率の向上 予算稼働率	時間	7,867	7,920	7,848	7,896
	稼働率(%)	-	99%	100%	100%
④蒸気発生量の向上	t/年	173,394	177,845	173,172	172,973
	対基準(%)	-	103%	100%	100%
⑤SDからの二酸化炭素削減 代替燃料生産量	kg-CO2	2023年度データ取り	269,235	1,076,941	今年度実績から算出予定
	対基準(%)	-	2023年予算値	400%	-
再生プラ原料生産量	kg-CO2	2023年度データ取り	331,800	663,600	今年度実績から算出予定
	対基準(%)	-	2023年予算値	200%	-
Ⅱ.水使用量の削減 (工水+純水)	m^3	133,295	135,764		
	対基準(%)	-	94%		
①工水使用量削減	m^3	72,169	75,267		
	対基準(%)	-	90%		
②純水使用量削減	m^3	61,126	65,021	57,812	57,812
	対基準(%)	-	94%	106%	106%
Ⅲ.受託した産業廃棄物の処分における環境配慮 ①機持ち作業の搬送による、道路汚れ防止	点	4.0	4	4	4
	対基準	-	100%	100%	100%
②前処理設備のダストのこぼれ・粉塵発生抑制(粉じん量)	g/day・m^2	47	20	20	20
	対基準	-	235%	235%	235%
社員駐車場での粉塵濃度(東~南東の風)	CPS	24	23	22	21
	対基準	22年平均	104	109	114
③SUS-A歩留まり向上	歩留率(%)	22年実績(38%)	65%	13%	12.8%
	対基準	-	2022年度対比	2022年度対比	-
④CO発生抑制	超過回数	22年実績(7)	0	0	0
	対基準	-	2022年度対比	2022年度対比	2022年度対比
⑤受託廃棄物の中間処理した廃棄物の削減(煤塵の含水率)	%	9.5%	15%	7~13%	7~13%
	対基準	-	65%	-	-
Ⅳ.地域清掃活動	参加比率	68%	80	80	80
	対基準	-	118	118	118

5-2 実績・環境目標

(2)運用期間中の実績

項目 ＼ 年度		基準値(2020～2022平均) or実績値 (2022年実績値は赤字)	運用期間における実績 運用期間(2023年4月～2024年3月) 目標(予算値)	実績	達成度(%)	評価	
Ⅰ.二酸化炭素排出量合計(電力・軽油)	kg-CO_2	8,497,499	8,551,636	8,268,674	103.4	○	削減目標
	対基準(%)	100	0.6	△ 2.8			
①電力使用量削減(買電量) 2016年中電排出係数(0.694)	kWh	12,049,278	12,128,100	11,714,004	103.5	○	削減目標
	kg-CO_2	8,362,199	8,416,901	8,129,519			
	対基準(%)	100	100.7	△ 2.9			
②軽油使用量削減 二酸化炭素排出係数 2.580(kgCO2/l)	L	52,442	52,223	53,936	96.8	×	削減目標
	kg-CO_2	135,300	134,735	139,155			
	対基準(%)	100	△ 0.4	2.8			
③稼働率の向上 目標予算値	時間	7,951	7,920	7,909	99.9	×	増加目標
	稼働率(%)	100	△ 0.4	△ 1.5			
④蒸気発生量の向上	t/年	171,261	177,845	173,699	97.7	×	増加目標
	対基準(%)	100	3.8	△2			
⑤SDからの二酸化炭素削減 代替燃料生産量	kg-CO2	-	269,235	557,766	207.2	○	削減目標
	対基準(%)	-	-	-			
再生プラ原料生産量	kg-CO2	-	331,800	28,231	8.5	×	削減目標
	対基準(%)	-	-	-			
Ⅱ.水使用量の削減(工水+純水)	㎥	127,670	140,288	133,425	105.1	○	削減目標
	対基準(%)	100	9.9	△ 2.1			
①工水使用量削減	㎥	67,993	75,267	73,870	101.9	○	削減目標
	対基準(%)	100	11	0			
②純水使用量削減	㎥	59,677	65,021	59,555	109.2	○	削減目標
	対基準(%)	100	9	△ 4.5			
Ⅲ.受託した産業廃棄物の処分における環境配慮 ①横持ち作業の搬送による、道路汚れ防止	点	3.8	4.0	4.0	100.0	○	増加目標
	対基準(%)	-	5.3	5.3			
②前処理設備のダストのこぼれ・粉塵発生抑制(粉塵量)	g/day・㎡	41	20	66	30	×	削減目標
	対基準(%)	-	205	62			
社員駐車場での粉塵濃度発生抑制(粉塵濃度)	CPS	24	23	13	176.9	○	削減目標
	対基準(%)	-	104	184			
③燃え殻からの金属の選別 SUS-A歩留まり向上	%	38	65	75	115.4	○	増加目標
	対基準(%)	-	71	197			
④CO発生抑制	超過回数	7	0	9	9	×	削減目標
	対基準	-	-	-			
⑤受託廃棄物の中間処理した廃棄物の削減(煤塵の含水率)【管理外回数】	管理外回数	9.5%【3回】	15%以下【0回】	15%【17回】	17	×	削減目標
	対基準(%)	-	-	-			
Ⅳ.地域清掃活動	参加比率	68	80	60	75	×	増加目標
	対基準(%)	-	117	88			

※CPS＝count per second
※SD＝シュレッダーダスト

※削減目標、増加目標では分母分子が逆になっている

6 環境活動計画

□2023年度環境活動計画

1.	二酸化炭素排出量削減
	①電力の二酸化炭素削減 ・不要照明の消灯 ・不要設備に停止(前処理) ・フリーエアーの削減(焼却) ②軽油の二酸化炭素削減 ・アイドリングストップ ・ローダー運転時間実態調査 ③稼働率の向上 ・緊急停止トラブルゼロ化 設備トラブルによる突発停止防止 ・掃除定修の実施による蒸気回収率UP ④蒸気発生量の向上 ・熱回収量の管理(総括電熱系数値) ・操業負荷向上 ⑤再生プラ原料、代替燃料生産量 ・再生プラ選別設備の早期定常化
2.	水使用量削減
	①工水使用量削減 ・不要工水の停止 ・トラック洗車場使用水の適正管理 ・中和処理↑による工水使用量↓ ②純水使用量削減 ・減温水への純水比率↓
3.	受託した産業廃棄物の処分における環境配慮
	①横持ち作業の搬送による、道路汚れ防止 ・ばいじん横持ち作業時の道路汚れ防止 ・有価金属積込時の道路汚れ防止 ・道路清掃作業の標準化 ・旧砂横持時の道路汚れ防止 ②前処理設備のダストのこぼれ・粉塵発生抑制 ・集塵ダクトのメンテナンス ・第1ヤードからの飛散抑制 ・灰ヤードからの飛散抑制 ・灰ヤードミスト、シャッターの活用 ③燃え殻からの金属の選別 ・SUS-A歩留まり向上 1. ソーター選別量↑ 2. SUS-MIXの再選別(焼却、ソーター) 3. 手選速度↑ ④CO発生抑制 ・アクションポイントにおけるCOを抑制行動 ⑤受託廃棄物の中間処理した廃棄物の削減 ・含水率(月平均含水率) ・含水率>15%超過に作業の標準化
4.	地域社会への貢献
	①地域清掃活動への参加 (2日開催)
5.	教育等年間活動実績
	①現場力強化活動 ・教育計画と活動の進捗管理

7 環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

目標項目		手段	取組み評価	目標値達成状況	活動に対するコメント	次年度の取組
二酸化炭素排出量削減	電力の二酸化炭素削減	不要照明の消灯	○	○	焼却炉ではフリーエアー削減によって、誘引ファン電力は削減できた。前処理に新設備導入で稼働時間増したが評価は○	焼却炉のフリーエアーの削減抑制し前処理設備の無駄な電力削減に努める。
		不要設備に停止(前処理)	○			
		フリーエアーの削減(焼却)	○			
	軽油の二酸化炭素削減	アイドリングストップ	○	×	作動時間と燃料消費率をに記録し、継続的なアイドリング停止及びアクセル操作に対する配慮をオペレーターへの教育し燃料消費の効率化を図ったが目標未達となってしまった。	次年度は2ヤード内でのダストの移動回数を減少させる事を目標とし、軽油の使用量削減に努める。
		ローダー運転時間実態調査	○			
	再生プラ原料、代替燃料生産量	再生プラ選別設備の早期定常化	○	×	セメント代替燃料は、定期的な出荷する事ができCO2削減に繋がりました ・再生プラは原料は、サンプル試験を実施中	次年度はセメント代替燃料、再生プラ原料の定常出荷を目指す。
	稼働率の向上	緊急停止防止	○	×	年間稼働率として予算は未達となってしまった。トラブル停止をゼロにすることは難しいが、同じ過ちにより稼働率を下げないように再発防止を徹底していきたい。	トラブル原因をしっかり把握し、今後もしっかり管理して再発防止に努めたい。
	蒸気発生量の向上	ボイラー清掃最適化	○	×	蒸気発生量は予算未達となってしまった。引き続き塩類の負荷をコントロールすることで炉内のダストの急激な増加を抑制し、蒸気発生量の増加を目指したい。	来年度も蒸気発生量を維持していけるように取り組みを継続していく。
		操業負荷向上	○			
水使用量削減	工水使用量の削減	不要工水の停止	○	○	タイヤ洗浄設備における工水の給排水プロセスを自動化するシステムを導入し、より定量的かつ安定的な工水の供給を実現し評価は○	次年度は工水の使用量削減目標廃止予定(自社努力での削減が難しい為)
		トラック洗車場使用水の適正管理	○			
		中和処理↑による工水使用量↓	○			
	純水使用量の削減	減温水への純水比率↓	○	○	今年度は第2減温塔内に含まれるダイオキシン量の測定データーを集め新たな実行動は取れなかったが、日々の純水使用箇所となる第1減温塔噴霧管理の調整を行っていた事で、年間目標○	次年度は収集したダイオキシン量の測定結果に基づき純水の使用量の削減に繋げたい。

受託した産業廃棄物の処分における環境配慮	横持ち作業の搬送による、道路汚れ防止	ばいじん横持ち作業時の道路汚れ防止	○	○	番方終りに道路掃除実施し、積込の最中にも掃除作業員配置し実施した。4Q頃から個人Sも導入し評価は○	次年度も継続して個人S実施し活動する
		有価金属積込時の道路汚れ防止	○			
		道路清掃作業の標準化	○			
		旧砂横持時の道路汚れ防止	○			
	前処理設備のダストのこぼれ・粉塵発生抑制	発塵源特定・対策	○	×	前処理粉塵は、こぼれ箇所が多いと粉塵量が↑に繋がるため、定期的な集塵ダクトと掃除を行い粉塵抑制するように実施市tが発塵防止できず評価×	集塵ダクトメンテナンス及び粉じん・こぼれ対策、継続し新規バグフィルター設置し発塵抑制に努める。
		集塵ダクトのメンテナンス	○			
	社員駐車場での粉塵濃度	第1ヤードからの飛散抑制	○	○	第1駐車場は、第1ヤードミスト噴霧条件変更等で目標値と昨年度実績ともにクリアすることができた。灰ヤードシャッター破損によりミスト装置常時使用し発塵を抑えた。	来年度も来年度も設備投資と作業改善により更なる低減を図る
		灰ヤードからの飛散抑制	○			
	燃え殻からの金属の選別	SUS-A歩留まり向上	○	○	MRDの入荷が増加し、それに伴い選別作業の量も拡大過程で、故障の頻発しシステムの脆弱性が明らかになった。これを受け、搬送システムの耐久性向上、選別装置の稼働安定性を実施し、総合的な改善評価は○	次年度のSUS回収に関してはオペレーターによる手選別作業時間を確保し標準化された作業時間の策定を進める
		1. ソーター選別量↑ 2. SUS-MIXの再選別(焼却、ソーター) 3. 手選速度↑				
	CO発生抑制	アクションポイントにおけるCOを抑制行動	○	×	上期は順調にCO発生を抑制出来ていたが、1月頃より原料シュートで閉塞する事が多発しCO88ppm超過回数が増え年間目標7回が結果9回と未達成となってしまった。	次年度は原料棚吊防止し安定操業でCO88ppm超過回数0を目指す。
	受託廃棄物の中間処理した廃棄物の削減	ばいじん中の水分管理	○	×	水分量測定におけるサンプリング法及び手順の再検討とその確立を行い、これを基に現場オペレーターへ教育実施ししたが超過回数ゼロ目標に至らず評価として×	来年度は作業環境下における条件分析を実施し最適な運用方法を確立を図る
地域社会への貢献	地域清掃活動	計画の早めの周知	○	×	道路脇の歩道清掃の為、安全に考慮しながら11/29と12/1の2日間の実施。23名の参加であった。残念ながら目標には達しなかった	来年度以降も引き続き目標達成を目指す。
		参加の声かけ	○			

8 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価結果

	法律・条例要求事項	遵守事項	順守評価	評価結果
法的要求事項等の順守評価結果	大気汚染防止法	大防法測定基準値以内 設置、変更の申請	大防法測定5/15、7/11、9/28、11/16、1/12、3/15測定	○
		基準値 ばいじん (O2 12%換算値) 0.04g/㎥N	結果 0.00043g/㎥N	
		基準値 硫黄酸化物 (濃度) 529ppm	結果 0.7ppm未満	
		基準値 窒素酸化物 (O2 12%換算値) 250ppm	結果 60ppm	
		基準値 塩化水素 (O2 12%換算値) 430ppm	結果 0.4ppm未満	
	ダイオキシン特措法	排ガス、燃え殻、ばいじんのダイオキシン測定	2023.11月 測定値を報告。(9/28測定)	○
		排ガス基準値 0.1 ng-TEQ/㎥N	結果 0.000051 ng-TEQ/㎥N	
		作業環境測定 基準値 2.5pg-TEQ/㎥	結果(11/16) B測定 0.41pg-TEQ/㎥ 管理区分Ⅰ	
	廃掃法	産廃許可証、マニフェスト管理適正処理、適正保管	電子・紙マニフェスト、全て適正に処理	○
	水質汚濁防止法	有害物質貯蔵指定施設変更、点検	2023年度毎月点検実施	○
	市産廃施設条例	処理実績の報告	2023.6月 報告	○
	消防法	防火対象物の定期点検報告	2023.6.14消防設備点検実施	○
	市火災予防条例	指定可燃物貯蔵施設の設置、変更届	2023.12月 消防用設備等設置届(屋外消火栓設備) 2024.2月 屋内保管場所の指定可燃物貯蔵量の変更(再生資源燃料)	○
	省エネ法	燃料・電気の使用量の届出	2023.7.26.報告書提出	○
	市環境保全条例	特定施設の届出	2023.4月 BF直投ホッパー撤去、不燃物投入ホッパー・トロンメルⅠ分級ライン設置、燃え殻・ばいじん保管場所建屋内レイアウト変更 2023.10月 廃酸タンクの更新 2024.2月 廃棄物受入ヤード(第2ヤード)保管量変更 2024.2月 トロンメルⅠ抜出プラ選別ライン設置、集塵バグフィルタ②集塵ファン設置、細粒物コンテナ設置、不燃物投入ホッパー削除、廃酸タンク50m3に変更、調整分離ピットにポンプ追加、給水ポンプ2台に変更	○
	電気事業法	定期審査報告	変更なし	○
	豊通リサイクルとの契約	取引基準、再資源化業務の報告	毎月報告	○
	自動車破砕残渣リサイクル促進チームとの契約	取引基準、再資源化業務の報告	毎月報告	○
	環境関連法規に遵守し違反、訴訟などはありません			

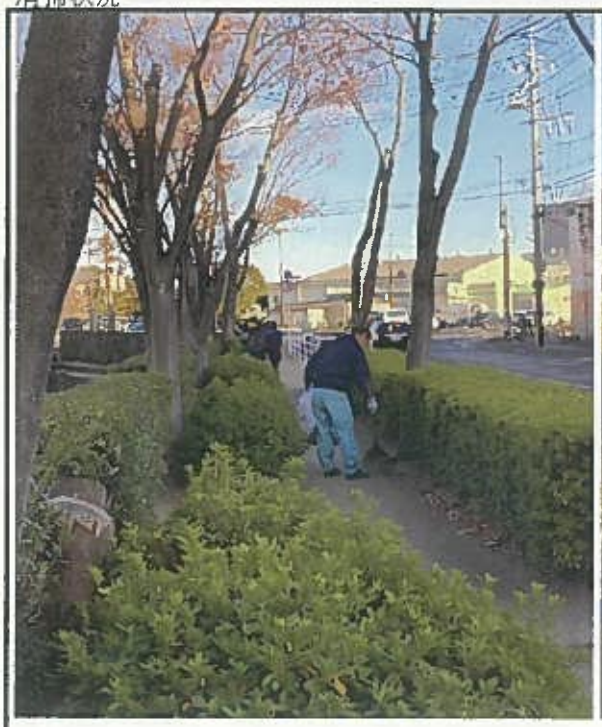
9 代表者による全体の評価と見直し指示

環境方針	変更の必要性 □要 ■否 【コメント】 内外部環境など大きな変化ないため継続とする
目標・環境活動計画	変更の必要性 ■要 □否 【コメント】 工水使用量削減について取組しろが極めて小さいため、純水使用量削減に目標を絞り取組みます
実施体制、その他	変更の必要性 □要 ■否 【コメント】 現体制で活動実施可能と判断します
総括	PDCAをしっかり回すことを意識して、活動に取り組んでいきましょう。

10.地域清掃活動

実施日時 2023/11/29(水)　　2023/12/1(金)

16:00～16:30

場所　　十一番川緑地および道路を挟んだ向かい側の歩道

清掃状況